

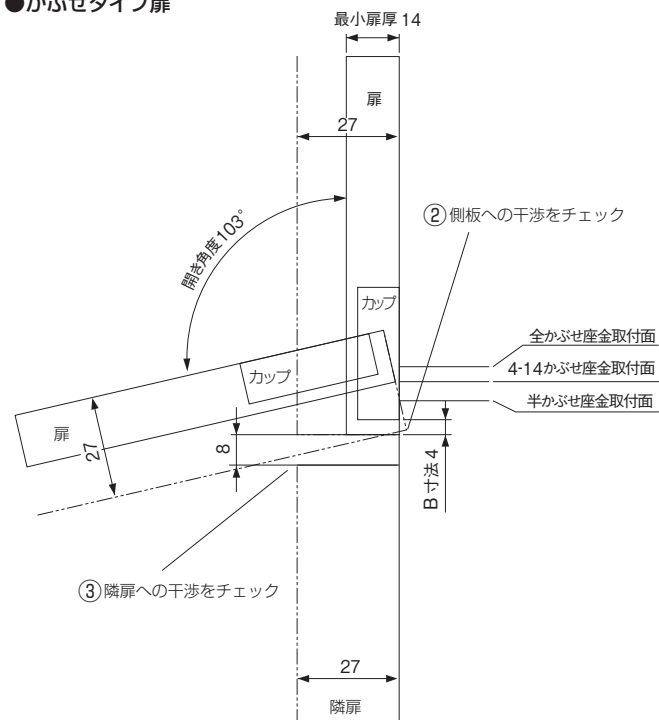
- 1 ドア錠
- 2 丁番
- 3 スライド丁番
- 4 開き戸金具
- 5 引戸錠
- 6 引戸金具
- 7 上吊式引戸金具
- 8 移動間仕切金具
- 9 折戸金具
- 10 室内用アルミ建具
- 11 取手・引手
- 12 スライドワイヤーバケット
- 13 収納・吊金具
- 14 その他の家具金物
- 15 物干金具・諸金具
- 16 真鍮アンティーク

設計ガイド (家具設計のためのスライド丁番選択のチェックポイント)

■扉確認図の利用方法 例：C105°の場合(77ページ)

ご注意 各製品紹介ページに掲載されている図は、誤差並びに製品公差を全く含まない理論値を基に作成されています。各製品をご使用される場合は、必ずサンプル扉に現品を取付けてご確認ください。

●かぶせタイプ扉



①図は縮尺1/2で掲載されていますので、製作される扉を縮尺1/2で描き加えてください。

例) 扉厚C=27
 B寸法=4
 かぶせ代A=18
 とすると「かぶせタイプはみ出し寸法表」からはみ出し寸法D=6.4mmとなります。
 ※ここでは余裕を取って隣扉との隙間を8.0mmとします。
 ----- で描かれた状態になります。

②扉の吊元側コーナーが側板に干渉していないかチェックします。

----- で描かれた扉が側板に干渉しています。

扉が側板に干渉した場合には、扉の加工を行うか、または扉厚C、B寸法の見直しを行い干渉部を無くす必要があります。

③扉の表面が隣扉のコーナーに干渉していないかチェックします。

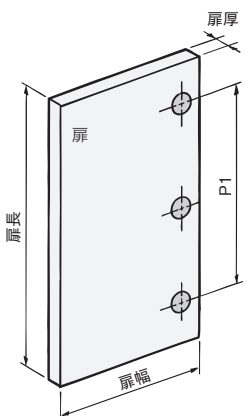
ここでは ----- で描かれた扉は隣扉に干渉していません。

仮に隣扉に干渉してしまう場合には、隣扉を加工するか、またはセットバックが必要です。

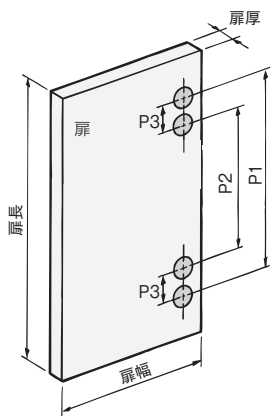
■取付け個数例

丁番の取付け個数は、扉幅・扉の重さ・丁番の取付位置などにより変わってきます。下表はあくまでも参考としてご利用ください。

ご注意 重い扉にご使用になる場合、または下表に示している扉厚並びに扉幅ぎりぎりでご使用される場合は、必ず実際の扉に現品を取付けてご確認ください。
 扉の上端や下端ぎりぎりには取付けしないでください。取付けねじにより扉に亀裂が生じたり、キャビネットの天板や地板にカップが干渉するおそれがあります。



●丁番の取付け個数が3個以内の場合
 上下のスライド丁番の取付ピッチ(P1)寸法が大きいほど、扉のたれ下がりやガタつきを少なくできます。



●丁番の取付け個数が4個の場合
 取付ピッチ(P1、P2)寸法が大きいほど、扉のたれ下がりやガタつきを少なく出来ます。また、上下のスライド丁番の各々のピッチ(P3)は同一寸法を取っていただくとより効果があります。

φ40mmカップ

NTR105°・DT105° 扉厚21mm、扉幅450mm		DT90° 扉厚20mm、扉幅400mm	
扉長	丁番使用個数	扉長	丁番使用個数
900 mm	2ヶ	900 mm	2ヶ
1,600 mm	3ヶ	1,600 mm	3ヶ
2,000 mm	4ヶ	2,000 mm	4ヶ

φ35mmカップ

CRT100°・C105°・W100°・CR150° 扉厚18mm、扉幅400mm	
扉長	丁番使用個数
900 mm	2ヶ
1,600 mm	3ヶ
2,000 mm	4ヶ